

⑤カウフマン療法

「排卵が起きていないので起こりやすくするためにカウフマン療法をしましょう」、「ホルモンバランスが崩れているので、体外受精の前にカウフマン療法をしましょう」等の説明を聞いた事があるかもしれません。ここではそのカウフマン療法とは何かについて説明します。

歴史

1993年にドイツの Carl Kaufmann が報告したので名前をとってカウフマン療法と呼ばれています。その時の報告は「卵巣を摘出した女性にエストロゲンとプロゲステロンを順番に投与したところ生理が再開できた」という内容です。

治療の対象疾患

- ①早発閉経
- ②第一度無月経の無排卵

カウフマン療法の意味

カウフマン療法では連続して数周期治療を行い、そのあと中止するとリバウンド現象が起こり、正常月経周期を回復する事があります。リバウンド現象とは、薬を急にやめた際、薬で抑えられていた症状などが以前よりかえって悪化する現象を言います。無月経の治療におけるリバウンド現象とは、視床下部－下垂体－卵巣系の機能が活性化される事を言います。

カウフマン療法中は、外因性のエストロゲン、プロゲステロンにより、視床下部へのネガティブフィードバックがかかり下垂体機能が抑制されています。

カウフマンを中止すると、視床下部へのネガティブフィードバックによる抑制が弱まります。その結果、視床下部－下垂体－卵巣系の機能が活性化して、正常月経周期が回復します。

薬剤の投与方法

正常な生理周期では、排卵前(D1～D14)の前半期にエストロゲンが分泌され、排卵後(D15～28)の後半期にエストロゲン(E2)とプロゲステロン(P4)が分泌されます。

カウフマン療法では、前半にエストロゲン製剤(プレマリンなど)を服用し、後半にプロゲステロン製剤(デュファストンなど)またはエストロゲンとプロゲステロン合成ピル(プラノバル)を服用します。

5日目～14日目までの10日間プレマリン(0.625)を2錠/日

15日目～25日目までの11日間プラノバルを1錠/日

以上を服用終了後、3日後に消退出血が起こり、周期が終わります。これで28日型の月経周期になります。